

【理学部】2024（令和6）年度 学部教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

学部長、副学部長、学科主任、学科教務委員、学科自己点検・評価委員で構成する教学マネジメント委員会を設置している。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

2025（令和7）年度の実装に向けて主要授業科目とアセスメント科目を設定し、必要に応じて調整しなければならない。アセスメント科目を利用したアセスメントの方法を学科間で調整しなければならない。これまで共通教育科目に委ねられていた資質能力のうちで、学部開講のアセスメント科目で覆いきれていない資質能力がある。

② シラバス

アセスメント科目でのアセスメント方法をシラバスでどう見せていくかが課題。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

特になし

今年度の取り組み

主要授業科目とアセスメント科目を各学科から提示してもらう。学科間のばらつきの調整を経て、実装に向けた作業に入る。学部開講のアセスメント科目で覆いきれていない資質能力の部分について、カリキュラムマップを見直す。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

依然として、学習成果実感調査の回収率に課題。低単位の学生を面談してその学習成果を把握し、教育改善に活かそうとしても、学生が呼びかけに応じない点が課題。

今年度の取り組み

学生との対話をさらに促進する。実践にはデータが必要であるので、学習成果実感調査や卒業時のアンケートなどの調査の回収率を高める努力を行う。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

まずは、授業科目を学習課程全体から捉える。数理科学科や物理科学科で設置された履修コースにおいて、コース名称からイメージされる修了レベルに対して、こちらが提供するカリキュラムがマッチし、修了した学生が求められるレベルに到達しうるものであるかの検証をしなければならない。特に、今年度より設置した物理科学科での「宇宙産業コース」と「半導体産業コース」において検討する必要がある。

一方、授業科目を個々のレベルで捉えると、授業とそれを受ける学生でこれらは異なり、具体的な課題には至れない。学習成果実感調査を見ても、具体的にそれぞれの到達目標の修得状況までは不明。低単位の学生に指導を行う中で対話をする、到達目標に至っていない点は具体的にわかるが、それは学生により千差万別であるため、学生をサポートする統一的方法が見当たらないことも課題。学生側にも問題はあり、お手軽に数学や物理を理解できている点は課題である。

今年度の取り組み

前半に関しては、1年間の振り返りを行い、必要な科目の設置を検討する。

後半に対しては、学生に時間をかけて勉学に励むよう指導する。低単位指導を徹底する。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
数理科学科 ・代数学・幾何学ⅠA ・代数学・幾何学ⅡA ・微分積分学ⅠA ・微分積分学ⅡA ・論理と集合 ・数理科学特別研究Ⅰ ・数理科学特別研究Ⅱ－Ⅰ・Ⅱ	☐ GPA ☐ 外部アセスメントテスト（TOEIC/GPS-A） ☐ 学習成果実感調査 ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート） ☐ 休学率 ☐ 留年率 ☐ 中途退学率
物理科学科 ・代数学・幾何学A ・力学A ・物理科学特別研究Ⅰ・Ⅱ	☐ GPA ☐ 卒業時調査（4年次生調査） ☐ 学位取得状況 ☐ 進学率
宇宙物理・気象学科 ・代数学・幾何学C ・物理学実験 ・特別研究	☐ 教員免許状取得状況

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

学生のモチベーションをあげる丁寧な授業作り。

その他

※この内容は2024（令和6）年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへの掲載を検討します。